



Title	黄金 岸
Author(s)	下田, 礼佐
Citation	商業と経済, 6(1), pp.184-194; 1925
Issue Date	1925-12-25
URL	http://hdl.handle.net/10069/26835
Right	

This document is downloaded at: 2020-10-22T10:16:43Z

黃 金 海 岸

下 田 禮 佐

熱帶植民地は植物性産物が豊富であつて、温帯文明國民に多量の原料、食料を供給する爲に、文明國の繁榮に缺くべからざるものであるが、西部アフリカ特にギニー地方の如きは、近世まで單に奴隸輸出國として知られた處であるが、今や熱帶産物の主要輸出國として各國の注目をひき、不定期船はギニー海岸の港へ行きさへすればいつでも積荷が得られこの附近は貨物運賃の最も安い所といはれてゐる程である。我々が地圖を見ればすぐに分る様にギニーからセネガムビヤの海岸にかけて英、佛、葡それに戦前までは獨逸の領地が錯雜してゐるが、各國がこの海岸の爭奪に熱中したのは、實に奴隸貿易の爲であつた、故に今もその産物の大部分は野生のものであつ

て、歐洲の資本、技術に由て拓植した栽培地 (Plantation) は極めて少いのである。しかもその盛況右の如きを以て見れば、將來の有望なことは推察される。今英領ギニー地方の一二を紹介する。

黄金海岸 はアジャンチ及びノーサーン・テリトリイを加へて面積約八萬方哩、東隣の委任統治區域トーゴ・ランドを合すれば九萬二千方哩、即ち本州と四國を加へた程である。海岸線の長さは三百三十四哩である。

地勢 及び植物分布の上から三帯に區別される、海岸は幅凡そ六十哩に亙て叢林に蔽はれた低地、中央は常緑又は落葉の森林、更に内地は高原になつて、草又は灌木の疎生したからりとした處である。つまりスーダンのサヴ

アンナの一部分となる。地勢は大體として波狀の起伏多く、特に森林地帯は丘陵多く起伏して、多くの河の源となる、その中にはヴォルタ、ブラー、アンコブラ、タノなどいふのがあるが、僅に下流ノンチが通ふに過ぎない。

季節は大體に乾濕の二季となる、雨季は三月に始まる、先づ軽いトーネード(暴風)が来てそれから六月まで雨多く、それからやゝ乾燥し九、十月に又少雨がある。乾季は一名ハーマタン期ともいふ、蓋しサハラの方からHamatanといふ乾燥した風が吹くからである、それが十二月から三月まである。元頗る不健康地とされてゐた處であるが、近年衛生状態が大いによといふ、それでも各種の微生物的疾患、赤痢、マラリヤ、氣管支炎、肺炎、皮膚病、寄生蟲病などが風土病とされてゐる、一部地方には例のツエツエ蠅が居て家畜の生育を脅かす。

土人 は勿論スーダンニグロで、幹軀長大魁偉な容貌の持主である、人口は一九二一年

のセンサスによれば黄金海岸で二百十一萬、委任統治地で十九萬、合計二百三十萬で、一方哩の密度二十五人である。

農業 土地は凡て民有であつて、それに部落有、家族有、個人所有の別がある、若し白人にして農業又はその他の目的で土地を租借せんとすれば、土人所有者と契約し、租借法の規定に従はなければならぬ、勿論政府は土人の利益を保護することを主たる政策としてゐるが、白人資本家が土人と協力して資源を開發する機會は甚だ多いといふ。農産の主要なものは次の通りである。

(一) コ、ア 之は最大の産業であつて、濕氣の多い常綠森林帯に限られる。

(二) コラ 椰子科の一種の果實であつて、この地方固有の植物である、主に附近の國へ輸出される。

(三) 油椰子 この植民地の元來の輸出品である椰子油及び椰子核を供給する樹である、濕氣の多い森林地に適するものであるが、野生

樹はコ、ア栽培に適せざる常緑森林地の縁邊に多い。

(四)コ、椰子 海岸又は河岸の砂地に生育する。

(五)棉花 内地のからりとした平地に栽培される、古くから土人が栽培し、四十年來輸出品となつた、殊に東部に多く産出する。

(六)ゴム 十九世紀末葉に主要輸出品であつたが、今はあまり重要でない、この地方に元からある野生の樹又は蔓から採取されるのでアシャンチの森林に多い。

以上述べたコ、ア、コラ、椰子油、椰子核コ、椰子即ちコブラ、棉花、ゴムといふ七種の産物が、この地方の農産の全部である。この中でコ、アは全價格の九割を占める、しかして黄金海岸のコ、アは、實に世界全産額の過半を占め、一九二四年には輸出額二十二萬三千トンに達した、しかしてコ、アは茶、コーヒーの如き一般的嗜好品として、その需要が急激にひろまりつゝあるから、コ、アを殆

ど唯一の輸出品とするこの地方の將來も多大の興味を以て迎へられる。

コ、ア 産業の發展については殆ど奇蹟的の話がある、勿論之は南米原産の植物で、十九世紀にポルトガル人が、ギニー灣中の火山島フェルナンドポーに移植して成功したが、一八七九年土人がその種をフェルナンドポーから持て來て植ゑて成長したのが始めて、その一本の樹の種を蒔き、更に政府が宣傳し、或は無代で種子を配附し、又は植栽の方法を教へたのが今日の大發展の元である、蓋しこの地方はコ、アに適する土地多く、その栽培は容易で且つ利益が多いからである、今年は輸出額六千萬乃至八千萬圓に上る。コ、ア産業の發展は自然他の産業を壓迫することになり、殊に本來主要産物であつた椰子油類が顧みられなくなつた、然しかく單一の産物に依頼することは、經濟界の變動及びコ、ア害蟲の襲來の場合等に於て、全植民地を經濟的破滅に導くものであるから、近來他の栽培にも

注意する様になつた。即ち植民地官憲は、(一) コ、椰子の栽培を勸奨し、(二) 瘠地で他に耕作

の道のない土地にシザール麻を植ゑ、工場を建て、土人にザールを作て、これを工場に賣り込ませること、(三) 小精米工場を設け、土人に粳を作ることを有利なことを知らせること、(四) コーヒーの栽培を勧め、種子を配附し栽培成功者に賞金を與へる、(五) 油椰子の栽培を復活させる、之等は凡て農務局でやつてゐるのである。英國官憲の見る處ではコ、アは己に極限に達し、今後は輸出額二十萬トンを維持することに満足せねばなるまいといふ。生産費の點についても、今迄コ、ア園の擴張時代は、ロンドン市價一トン當り四百圓であつた、尤も當時は交通も不便で主として頭上運搬に由たのである。然るに最近二年間價格大に下落し三百圓代になつた、而し交通は大に便利になつた。英國市價一トン三百圓では生産者にあまり利益はない、特に交通不便の奥地では利益がない、然し現在の生産方法で

は恐らく黄金海岸が最も安くコ、アを生産し得るだらう。

油椰子 の産業はコ、アの爲に壓迫されて今は過去の産業となつた、それは油椰子の果皮から油をしぼり、又はその核を取るのが土人のやる方法では勞多くして利少く、到底コ、アに及ばないからである。この産物の價値あることは疑の餘地なく、又現在の市價は、この地方が椰子油の輸出で鳴らした時代に比し高いのであるが、それでも輸出を刺激するに至らない。この樹は内陸の乾燥した平地を除けば國內どこにもあるが、今野生にあるのは數百方哩の地域である、時々椰子酒を採る爲に伐り倒されることがある。然し植栽の餘地は甚だ多い。新しい椰子油は土人の食料として需要多く、交通の發達に伴ひ、國內取引が盛で、市價又輸出價より高く利益がある。それで現在のまゝでは發展の見込も少いが、英國資本家が土人農家と共同經營でやれば見込があるといふ。最近蘭領東印度に於て白人

經營のプランテーションで油椰子の植栽を始め大成功が期待されてゐるといふ。その外コラは生の種子のまゝでナイジユクヤに輸出されるもの、コブラはコ、椰子が海岸に生へるので漁民の副業として作られ、今は微々たるものであるが、大プランテーションの計畫がある。ゴムは野生の樹又は蔓から採つたのであるが、近年市價の暴落と原料樹の少いため衰廢した、バラゴム植栽は市價恢復まで見込がない。

シエア脂肪 (Shea Butter) といふのは、*Butyrosperrnum Parkii* の種子から採つた脂肪で、土人の食物となる。ライム、オレンジその他の柑橘類、バナ、パイナップル等各種の熱帯果實も有望な産業である。内陸では灌漑をやれば棉花の栽培も有望であるといふ。

コ、ア栽培業者(土人地主)は、比較的多くの労働者を使ふが、土人は鑛山労働よりは農耕を好む爲に、農業労働者は割合に得易く、

奥地から出て来る者と地方の者で大抵需要に應せられる、勞銀は一部は金、一部は食物で拂ふが普通七十五錢見當であるといふ。

林業 森林面積は三七、一七五方哩であつて、主な産物は材木、殊にマホガニー、シイダー及びゴムであるが、ゴムは上述の如く衰退し材木の輸出も振はない。

牧畜 内陸草原では土人が多く山羊を飼てゐるが、その外はツエツエ蠅の爲に、馱獸、食用獸共に牧養に適しない、ツエツエ蠅の脅威は馱獸の生育を不可能ならしめ、熱帯アフリカの開發に對する根本的障害を與へるものである。

鑛物 地域の過半、凡そ五萬四千方哩は、經濟的價値ある鑛物を藏してゐる、他の地域は、主としてヴォルタ系 (Volta Series) の水成岩に蔽はれてゐる、この地層は、殆ど水平の層位を有する粘土質頁岩、泥岩、扁豆狀石灰岩、砂岩、砂利、礫岩等より成る。鑛物含有區域は次の三種の岩石から成つてゐる。

(a) 古期水成岩及び火山岩、古期水成岩は一部は變成岩となり、又はそれとの區別の判明しないものがある、多くは粘板岩、千枚岩、雲母片岩、硬砂岩、砂利、礫岩等より成る。火山岩は熔岩流となつて迸出したもので、ドレライト(基性熔岩)、及び安山岩が多い。(b) 火成岩、各種の時代及び種類を代表し、花崗岩斑岩、ペグマタイト、閃綠岩より成る。(c) 變成岩、各種の片岩を含む、即ち雲母、石英、石英質雲母、滑石、石墨、キアナイト(一種の硅酸礬土)、綠泥石等の片岩類、その他、千枚岩、板岩、珪岩、大理石、蛇紋岩、アムファイボライト、各種の片麻岩を含む。この中多くの價値ある鑛物を含むのはa及びcの岩層であつて、殊に比較的近い時代まで海水に蔽はれて居て、隨て風化作用の進まない岩層にそれが多い様である。主要鑛物は、金、マンガシ、アルミニウム鑛を主とし、ダイヤモンド、低級又は中級の鐵鑛、砒素、錫、チタン陶土、石墨等もある。

金 岩金と砂金とあることは勿論であるが岩金即ち *lodes* から採るのにも色々あつて、(1) バンケットトリーフ *Banquet reef* は有名な南阿ヨハネスブルグ附近、ウイトウオータースランドの金産出状態と同一のものであつて、即ち硬い著しく變質した礫岩層中に金を含むものである、即ち鑛床をなすものである。しかしてその礫岩は、粘土質又は砂質の礫及び砂の中に石英の圓礫を含むものであつて、金はその圓礫と圓礫の間の細かい物質の部分に獨立して存在する。鑛石は普通トン當り八乃至十二グレンの金を含む。タクアー、アボン、アボンチアクーン、アジアビツポ等の鑛山は之に屬する。バンケットトリーフは普通北東の走向を有し、褶曲して各地にその露頭を露はす、タルクワの南西より北東に向ひ約百哩に互りその露頭がある。

(2) 石英脈中に含有されるものは *Fissure-veins* といはれ、アシヤンチ金鑛會社の鑛山がそれである。この種のもものは、走向に隨ひ

可成り長くつゞいてゐることがある、鑛脈の厚さは數吋から二十呎に至る、その側壁には多くの石墨を含む。石英中に金は獨立して存し、又は含金黃鐵鑛、砒素鑛などを含むことがある。

(3) ベグマタイト岩脈に出るものは、強度の酸性石英、及び水晶に伴ふ、岩脈中には、白雲母又は黑雲母を含み、時に黃鐵鑛を有する之は鑛脈の厚さ數呎の場合に限り稼行し得る含金率を有する、金は獨立し又は黃鐵鑛に伴ふ。ベグマタイトのものは、小範圍ではあるが分布廣く、花崗岩の貫通する所に多い。

砂鑛 砂金は含金母岩から直接生じた土壤海底に沈積した砂利及び砂、河の砂利及び砂の何れかにあるものである。土壤中にあるものは、金鑛脈又はバンケットの露頭のある所であつて、その母岩の風化崩壞に由て生じたもので一個所に比較的小量にあるものであるから、單にその母岩の所在地を捜し出すに役立つものである。海成層にあるものは、過去

の成生にかゝるもの、現在沈積しつゝあるものと二種ある。前者は細かい粘土質の砂より成り、多くの石英の破片を含む、これは金の存在を知るのに困難である。後者は含金地の海岸に堆積したもので、稼行する程有望なものはない、河成の砂礫層中にあるものは、古いのは現在の河床より百呎も高い段丘中にあることがある、この種の砂金地は非常に多いが土人がバケツで淘汰する位で大規模にする程の所はない。

黃金海岸はその名の示す通り古くから金の産地であつて、土人は少くとも三四百年前から、砂金、バンケット、鑛脈の何れをも採て居たらしい。一九〇三年から一九二三年に至る過去二十年間の金産額はバンケット二百萬オンス、リーフ二百八十萬オンス、砂金五十萬オンス、合計五百三十二萬オンス、價格二千二百六十一萬ポンドであつた。現在では有望な産金地は未だあるが土人が坑内勞働を好まず、勞力を得がたい爲に開發の途がない

のである。

マンガン マンガンは鋼の精煉に缺くべからざるものであつて、現今コーカシヤ、ブラジル、印度が主産地である。黄金海岸地方に於てその産出状態に三通りある、

- A、マンガンを含む千枚岩又は板岩、
- B、片麻岩又はアンフイボライト（角閃石を多く含む變成岩）中に存するもの、
- C、A、Bの岩石が風化して表面に集中して生じた分離鑛床、

この中で經濟上價値あるはCばかりである中にも Insuta-Dagwin では鑛床が東北北乃至南南西の走向を有する著しい隆起帯をなし、各所にその露頭を現はし、厚さ百呎に達する所がある、アフリカマンガン會社之を經營し年二十四萬トンを出す。鑛石の成分は次の通りであつて、マンガン鐵の製造に特に適してゐるといふ。

マンガン 五〇——五三パーセント
 鐵 二——四

硅酸 三——七

磷 〇・一——〇・一二

アルミニウム鑛(Bauxite) アルミニウム鑛石即ちボークサイトは非常に多く、主に高原地方の頂上の扁平な山の頂きに出で、厚さ十乃至四十呎に達する。クワフ高原のエジュアネマ山の鑛床は厚さ平均二十一呎、鑛量凡そ四百萬トン、その大部分は良質と稱せられる、その分析の結果は次の通りである。

アルミナ(酸化アルミニウム) 六〇、五五パーセント

(アルミニウム二二、七)

- 酸化鐵 九、七五
- 酸化チタニウム 二、二一
- 石灰及マグネシヤ 〇、七三
- 酸化バナヂアム 〇、〇三
- 硅酸 一、四二
- 水 二五、五九

このボークサイトはヴォルタ系の粘土質頁岩から自然的に硅酸が分離して生じたもので

ある。

なほウイオン地方セフウイベクワイ附近ア
 フオ山脈に平均二十呎以上の大鑛床があつて、
 鑛量五千萬トン、アルミニウム含有量平均
 二二、五パーセントとして約一千萬トンのア
 ルミニウムが得られるといふ。現今この地
 方のボークサイトは稼行する迄に達してゐな
 いが、良質鑛はアルミニウムの鑛石となり、
 低質のものは高級アルミナセメントの原料と
 なるので、交通機關さへ開ければ有望な産業
 である。

ダイヤモンド ダイヤモンドは國內各地に
 發見されたが、經濟上價值あるはアキムのピ
 リム河流域のみである。凡て河の砂礫又は古
 い海成層中に發見される。南アフ리카の如く、
 ある一地域の火口填充物であるや否やは確め
 られないが、元はやはり填充物又は熔岩流或
 はそれより生じた礫岩であらう。一九一九年
 に始めて發見され、已に六萬五千カラット(約
 八十萬圓)ほどを出した、不幸にして小粒で

あつて、八分一乃至二分一カラットのもの
 多いが、一般に良質である。その外鐵、砒石
 錫、タングステン、モリブデニウム、銅、
 チタニウム、陶土、石油等の存在が知られて
 ゐる。

交 通

自ら港まで歩いて來る奴隸を唯一の產物と
 して榮えた時代はいざ知らず、現代の如く、
 文明國の爲に原料と食料とを提供させる爲に
 熱帶アフ리카の植民地を開發するには、交通
 機關の開發は第一に緊要なことは勿論である、
 熱帶アフ리카に植民地を有する歐洲各國は、
 先づ海岸に港灣を修築し、母國との間に航路
 を開き、海岸の港から内地の孤立した水路(例
 へばコンゴ、ナイジャー、大湖)へ鐵道を
 布設して、内地の水路を港と連絡させる、之
 が普通の熱帶アフ리카開發の方法である。不
 幸にして黄金海岸もアフ리카特有の缺點を備
 へてゐる。海岸に良港がなく、海岸の低地は
 不健康である。可航河川の著しいものがない。

ツエツエ蠅の爲に駄獸が生育しない。

主な港はアクラ、セコンデーの二港であつて、こゝには、エルダーデムスター(英)、シヤルジュール、ニー(佛)、ブルライン(米)、ウエルマンライン(獨)、オランダ西アフリカライン(蘭)など各線の定期船が寄航する、兩港には防波堤及び起重機のある突堤があるが小汽船(ライター)繋留の設備がない。なほタコラチの築港が完成すれば大汽船を入れられる(一九二六年完成の豫定)、今分では遠洋汽船は沖合二海里に碇泊し、サーフポートで荷役する、それも風上の方の船艙は殆ど開くことが出来ない。重量品は破損又は海中に落すことが珍らしくない、そのサーフポートで船と陸岸の間を運ぶにトン當り十一人を要する。隨て陸から船又は船から陸揚にトン當り五シリング(貳圓五拾錢)かゝる、しかして一日の荷役最大限八百トンに過ぎない。

陸上の交通は頭上運搬、自動車、鐵道の三通りある。その運賃の割合は、

頭上 一トン 一マイル

貳圓五拾錢乃至參圓

貨物自動車 壹圓貳拾五錢乃至壹圓六拾錢

鐵道 參拾錢乃至拾貳錢

鐵道は凡て國有であつて、三呎六吋軌幅である。アクラ、セコンデーの兩港から内陸のクマシーに通ずる兩幹線を主とし、外に二三の涵養線があつて、總計約四百哩の已成線がある。

自動車を通ずる道路は約三千哩ある、氣候の關係上、豪雨至る毎に橋を破壊し、堤防を流す外、舗装した路面を軟かくする爲、道路破損し易く、道路維持費が案外高くつくといふ。とにかく港灣修築、水陸連絡設備、鐵道網の完成、しかして鐵道への涵養線又は配給線として車道の開通は黄金海岸地方産業開發の第一歩であらう。

貿易 貿易は英本國との取引が全額の約六割を占め、その外は米、獨、佛との取引が主である。輸入は凡そ八千五百萬圓、袋、肉類

その外食料品、綿製品、鐵類、自動車、石油を主とし、輸出は八千三百萬圓、コ、アを主とし、金、マンガン鑛、コブラ等が主である。しかししてコ、ア、材木、ダイヤモンドには輸出税が課せられ、葡萄酒、酒、タバコ、火薬には従量税、特定以外の食料品には、一割二分五厘、その他のものには二割の従價税を課するといふ。

結論 アフリカはエジプト、南アフリカの一部を除けば、現今殆ど全く本邦人の商權外であつて、特に熱帯アフリカの如き顧る者もない、然し本邦商品の販路としては、(一)その住民の生活程度低く正に本邦生産品の如き廉價品の輸入に適してゐる、(二)熱帯から本邦への輸出品としてはコブラの如きものがある、(三)英國の植民地は母國、他の英國植民地との間に何等特惠關稅制度を設けて居ない、之等の點は將來の市場として本邦人の正に注目すべき點であらう。

一九二五年五月九日、ロンドン郊外、ウエムプリー公園

に於て、イギリス帝國博覽會が開かれた、昨年の蒸し返しといふ非難もあるが、幾多の新機軸を加へてあるし、勿論私にとつては初見であるので度々出掛けた、特に興味を感じたのは、各植民地が競つて自國を紹介する爲に色々新奇な趣向をこらし、觀覽者の理解に努めたことである。熱帯産業の開發に最も興味を有する私はアフリカに特に注意を拂ひ、入場の度毎に視察し、多くの印刷物をも貰ひ、それら直觀と印刷物までこの拙稿一篇を綴つた次第である。引用書目をあげないのはその爲である。

(一九二五年六月九日)